

隠岐の自然学散歩－8「西の島・国賀海岸の絶景」

島前・西の島の北西部の海岸は、6kmに亘って断崖絶壁となっていて、「国賀（くにが）海岸」という隠岐を代表する景勝地です。

ここは600万年前に始まった火山活動で噴火が繰り返された結果、粗面玄武岩や粗面安山岩が層状に堆積し、溶岩台地が形成されました。その後、海岸線は波蝕によって強く削剥され、垂直に近い絶壁や海食洞・浸食橋など多彩な奇景・絶景ができたのです。

この地は大山・隠岐国立公園の特別保護区で、国の名勝・天然記念物に指定されており、最高地点の魔天崖より海岸部の国賀浦までの遊歩道に沿って、約1時間の観光コースをご案内しましょう。



●魔天崖頂上：国賀海岸の断崖の最高地点（標高258m）で、上部は台地の広い草地となっていて牛馬が放牧されています。遊歩道は牛馬の糞を踏まないように歩くのが至難な位です。

ここからは海岸線全体が一望でき、隠岐随一とあって良い絶景が展望できます。（写真①）

●魔天崖絶壁：切れ落ちた絶壁は頂上より半ば降りた中間地点の突先で観察することができます。断崖の下から上まで層状の縞が見て取れますが、これらの層は噴火のたびに流出した溶岩と火山灰・火山岩が交互に積み重なったものです。

海食崖としては国内最大級の高さを持つ景観で、見る者を圧倒します。（写真②）

●通天橋周辺：海岸近くまで下がってくると、海食洞の奥の部分が崩落し周辺が浸食されることによってできた天然の橋を見ることが出来ます。橋の周辺は何層も積み重なった粗面玄武岩が一部酸化を受け赤色となっており、そこに白っぽい粗面安山岩が地層に平行に貫入していて、まるで地質と波蝕造形の展示場のごとき景観です。（写真③） 海浜周辺は波蝕によってできた観音岩などの奇岩が並び、公園化された展望台から一目八景の景色を楽しめる遊歩道の終点です。（写真④）

この荒々しい外海に対して、島前3島に囲まれた内海は穏やかで、3か所の海峡から流入する栄養豊かな対馬海流と島からのミネラルという好条件下で岩牡蠣の養殖が盛んに営まれています。地元の漁業後継者の中上光さんが平成4年に全国に先駆けて岩牡蠣の種苗の開発に成功し、以来隠岐ブランドの岩牡蠣養殖事業が発展を遂げ、今では年商約2億円の産業に育ちました。



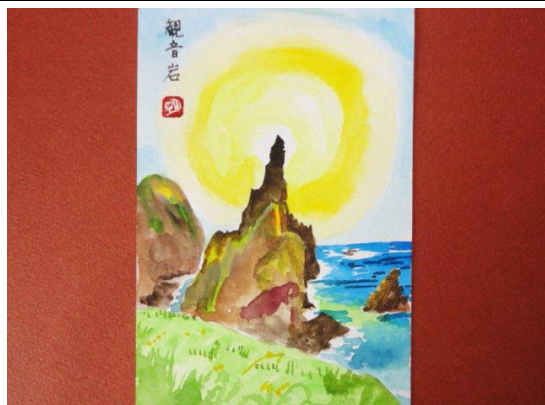
① 魔天崖からの国賀海岸の眺望



② 魔天崖の大絶壁



③ 通天橋周辺の多様な地層と波蝕造形



④ 観音岩（梅本 到絵師 挿画）